

# NVC Monthly



寝屋川映像同好会会報  
第112号(201903)  
発行 竹田 幸男



1月例会前の 新年食事会 コミュニティキッチン「楽食」

## 例会の窓

### ■映像同好会12月例会

日時：2018（平成30）年12月12日（水）  
13：30～

場所：市民活動センター4F こども部屋

出席者：新井 小笠原 佐伯 妹尾 竹田 谷  
中村地区委員

欠席者：1名（50音順・敬称略）

### 例会次第

#### 1. 報告・連絡・協議事項

(1) 会報随想 小笠原さん（次回3月発行 原稿は2/末）

(2) 大阪アマチュア映像祭 12月9日（日）の回想

(3) 文化連盟理事会の報告（新井理事）詳細略

(4) 第9回ビデオ作品発表会

・2019年5月18日（土） 松心会館 3F会議室

3月例会までに出品2作品持参。

総会と同じ日に会場で枚方北と河内和泉の総会があるので、2回目の映写開始は総会終了時刻に設定し、プログラムにも、例えば枚方の行事関連の物を入れるとかして集客を促進したい。妹尾さんと谷さんの作品を各一作追加したい。

(5) 11/20の撮影会の結果次回撮影会に何を求めるか。

(6) 映像協会忘年会

・12/16（日）9：30～11：30 市民活動センターワーキングスペースで合同例会。

・12：00～駅前がんこへ移動 忘年会 会費4,500円

・例年通り、自分では不要でも、他の人にとって有用な物を持参。

#### 2. 映写

(1) 小笠原さん「三好長慶公 武者行列」の案内 部分映写

・2019年3月2日（土）のイベントに依頼されたので数人協力してほしい。

(2) 新井さん 「思い出の花博公園を訪ねて」7分50秒

・竹田会長が監督、花博映像と間邪さんのナレーションを提供したもので制作。モデルも間邪さんの架空のドラマ風な作品。

(3) 新井さん「思い出の摂津峡」6分6秒

・映像北大阪との合同撮影会。その時のモデル早川さん、生田さんで架空のドラマ風な作品。監督は北大阪会長の堀さんと竹田会長のふたり。

ある場面でナレーションが中断なく続くので3回位に切り分けてあげるともっとよくなるのでは。

(4) 谷さん「松尾大社から唐櫃越え」3分

・12/11 13キロ歩いた京都洛北方面の思い出を静止画に。

(5) 妹尾さん「晩秋の瀬戸内海シリーズ」10分

- ・美しかった日の出。夕日を背景にして、本四架橋を海上から見上げる。

### 3. 各会員の最近の活動状況・情報交換・当面する問題点等（略）



#### ■映像同好会1月定新年食事会／例会

出席者： 新井 小笠原 佐伯 妹尾 竹田 谷 中村地区委員

欠席者：1名（50音順・敬称略）

新年食事会 例会に先立ち11：30 昭栄町ジョーシン1F駐車・駐輪 ライフ  
前集合 木田町26-4コミュニティキッチン「楽食」072-811-7001

例会：時間・場所：1月9日（水）12：00／市民活動センター4Fこども部屋  
例会次第

#### 1. 報告・連絡・協議事項

（1）会報随想 小笠原さん（次回3月発行 原稿は2／末）

（2）文化連盟理事会の報告（新井理事）

（3）第9回ビデオ作品発表会

・2019年5月18日（土） 松心会館 3F会議室

・準備日程・プログラム等の相談

・当日総会を行う支部へのPR方法の相談

午前の部 10：00～12：00 午後の部 14：30～16：30

打ち上げ17：15～

（4）本年の主な行事予定

・3／24（日）映像協会総会・合同例会 13時より第11会議室

・4～5月 第1回撮影会

・5／18 ビデオ作品発表会

・7／28 合同例会 大阪アマチュア映像祭作品決定

・9／11 9月例会 文化芸術祭作品締め切り

・10月／？ ふれあいフェスタ

・10～11月 第2回撮影会

・10～11月 大阪アマチュア映像祭

・11／3 （予想）寝屋川文化芸術祭

・12／15（予想）合同忘年会

（5）寝屋川動画コンテスト

・1／31作品締め切り

（6）次回撮影会に何を求めるか。また撮影会以外に何が必要か

## 2. 映写

- (1) 谷さん「寝屋川竹炭づくりの会 第5回活動展」 11分  
・静かな会場だが賑やかなBGMで映像に合わないとの意見あり
- (2) 新井さん「田んぼアート遍歴Ⅱ」 9分50秒
- (3) 妹尾さん「空から見る知床の自然」 10分  
・空から見た知床の自然を紹介したい。(撮影30年8月27日)
- (4) 竹田さん 新井さん「文化連盟展 舞台・展示部門」  
・長いので一部の紹介

## 3. 各会員の最近の活動状況・情報交換・当面する問題点等



### ■映像同好会2月例会

出席：新井 小笠原 佐伯 竹田 中村地区委員

欠席：3名 (50音順敬称略)

時間・場所：2月13日(水) 13:30 市民活動センター4Fこども部屋

#### 例会次第

##### 1. 報告・連絡・協議事項

- (1) 会報随想 小笠原さん(次回3月発行、原稿は2/末)
- (2) 文化連盟理事会の報告(新井理事)  
・第6回文化連盟展の予定日取りは? 来年第12回寝屋川映像フェスティバルを開く予定だが、第6回文化連盟展も来年の予定なので、期日が近くない方が良い。場所は1年前の決定なので文化連盟はそのことを意識しているのか?
- (3) 第9回ビデオ作品発表会  
・平成31年5月18日(土) 予定、準備日程・プログラム等の相談  
当日総会を行う支部へのPR方法の相談  
午前の部 10:00~12:00 午後の部 14:30~16:30(一例)  
打ち上げ17:15~  
・作品は3月例会で集めるが、今日予定作品を聞く。10分以下、2作まで予定。  
・4月例会でプログラム配布予定 日程は西暦で
- (4) 映像協会総会・合同例会  
・3/24(日) 午後1時より第11会議室で開催、今日委任状に記入
- (5) 大阪アマチュア映像祭出品料の件  
・忘年会で1万円を中村氏から預かった。映像協会会計には既に立て替えて払ってあったので、今日その領収書を渡した。



(6) 次回撮影会に何を求めるか。また撮影会以外に何を望むか。

### 3. 映写・研究発表

1. 小北さん「映像協会忘年会」

4. 各会員の最近の活動状況・情報交換・困りごと・当面する問題点等



## 我が人生の一部を振り返って

小笠原 邦雄

今年は平成が終わり、新しい時代を迎える。昭和に生まれた小生は明治・大正はなんとなく身近に感じていたが、新しい時代に生まれる者は、昭和・平成を同じように感じる事だろうと思った。改めて長生きをしているなあー！ とも、思った次第である。

我が人生を振り返ってみると、瀬戸内の小さな島で小学校3年まで過ごした。毎朝、ほんの少しの高台にある我が家にまで届く、四国・多度津まで行く巡航船のエンジンの音で目覚めた記憶がある。海岸で満ち潮を見ていると優雅な気持ちになることが懐かしい。優雅になる？ なぜだろう？ 小生だけかな？ 他人に確認したことがない。いつの日にか、島の人に確認しようと思う。

小生の生まれた小島「神島（こうのしま）」は、今は、干拓で本州と陸続きになっている。天然記念物の「カブトガニ」が生息しており、世界で唯一の「カブトガニ博物館」がある。また、お遍路八十八ヶ所巡りもある。島の天神で繰り広げられる秋祭りは、我が家の陸屋根（ベランダ）から見た。島の集落から提灯で飾られた何艘もの船が天神様に向かう様は、おとぎの国の出来事のようにだったと、今も懐かしく思い出される。白石島には、平家の源平合戦の死者を弔う無形文化財の「白石踊」が有名。北木島の「北木石」も有名。日本銀行、靖国神社の鳥居、京都五条大橋などで使われている。

小学校3年の2学期に島から笠岡市内に転宅。山陽本線の汽車が珍しく列車の音を聞くと急いで見た。友人は知らん顔。珍しくないのが不思議だった。井上靖の「しろばんば」の主人公洪作が、伊豆半島・湯ヶ島から、浜松に転宅した時の様子が、小生と同じような気持ちに共感を感じた。映画も学校から見に行くこともあった。文化的な生活に心が躍った。岡山、福山の空襲も遠くからだったが、火の手が上がっているのが見えた。唯一の叔父（母の弟）、記憶には全くないのだが、戦死した葬送の列を遠くから見送った。祖母の墓参りにお供をしたが、悲しそうに手を合わす姿を思い出すと、今も涙が出てくる。遺骨はなく紙切れ一枚があったと聞くと、

なおさらである。

グリーン車は車両にグリーンの帯があったからだ。進駐軍の軍用列車は白帯であった。我々が乗った列車を待機させノンストップで走り去るのを見て、子供ながらに無性に腹が立った。朝鮮戦争の頃には、戦車などを乗せた軍用列車が、何本も何本も下って行った。アメリカの兵隊も同道していた。物流の多さに驚き、日本が負けたのも仕方がないと思った。天皇陛下のお召列車を何度か見送った。お召列車の少し前をピカピカに磨き上げた機関車が走り抜けると、その後をお召列車が通過したことを思い出す。

高校での二人の教師の話に深く共鳴させられ、今も心に強く残っている。その一教師は、大東亜共栄圏はアジアの発展を目指した崇高なものであった。軍部が別な方向にゆがめてしまった。諸君はこのことを心に留めておくように。また、東京裁判では11人の判事の中でただ一人、インドのパール判事が、国際法によらず、事後法によって行われた東京裁判は、戦勝国によるリンチと何ら変わらない復讐であると日本無罪論を主張した。また、広島原爆死没者慰霊碑の碑文、「安らかに眠って下さい 過ちは 繰返しませぬから」パール判事は主語は？ 日本が原爆を落としたのではない。論議の末、世界の人々が主語と言うことで現在に至っている。このことを忘れないようにとの教師の言葉に促されて、平成9年、インド独立50周年を記念して、パール判事の顕彰碑が建立された京都護国神社を訪れて思いを新たにした。また、その教師は、東京裁判で、広田弘毅は文官としては唯一のA級戦犯とされて死刑。判事の3人は無罪、2人は禁固刑を主張、オランダの判事は、広田は戦争に反対し、平和の維持・回復に最善を尽くしたと明確に無罪を主張している。主席検事も馬鹿げた判決だ。どんなに重い刑罰でも終身刑までだとのコメントを残している。教師は、こんなことがあったことを、忘れないようにと。また、昭和20年4月1日に、台湾海峡で米国潜水艦により撃沈された阿波丸事件のことも聞かされた。阿波丸は、連合国側から往復路絶対安全を保障されていた「緑十字船」であった。戦後、当然、損害賠償請求権は有していたが、日本政府は放棄した。別の教師は、ソ連に抑留をとかれ舞鶴港に着いた時、一緒に帰国した連中が、出迎いの娘さんが手渡した花束を、投げ捨て、スクラムを組んで労働歌を歌い、蹴散らしながら下船。洗脳された馬鹿どもにうんざりしたと嘆いていた。この教師は、私の卒業後、大学教授として活躍され、保守派の大論客でもあった。YouTubeでは活躍の様子が紹介されている。

小学校3年の時、2か月の間に両親を亡くした父は、両親代わりにキリスト教に帰依したと聞いた。我が家で先生たちと民主教育とはと論議していた。父はキリスト教のゴールデンルール（自分が欲することを、汝が人に施せ）が基本だなどと話していたことを思い出す。三浦綾子の自伝小説「道ありき」を涙ながらに読んだが、教師として「墨塗り教科書」に戸惑いが書かれていたことを思い出した。小3の時、キリスト教会へ行けと父にいわれ、中2まではプロテスタント、中2の時に、DP屋の我が店に外国人の神父が来ていた。田舎町では外国人が珍しくカソリックに変

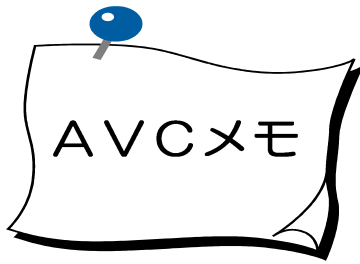
えた。洗礼をとったら、父は成人になってから判断せよ。とのことで無神論者で現在に至っている。

東条英機に同行した無線技士の先輩の話聞いた。和文120字（1分）で送受信したとのこと。神業のようだった。また、源田実の護衛として、零戦で同行した人の話を聞いた。その人は、零戦をエンストさせて後方から迫ってくる敵機の後ろに回ることが出来た。敵機のパイロットが撃たないでと合図をしていた。護衛が任務なので敵機を撃墜したことはないとのことだった。自分の零戦の操縦は誰も真似ができなかったとのこと。キスカ島から帰還したという人に出会ったが、詳細は聞かずじまいであった。気になって後で調べてみた。キスカ島撤退作戦は、島を包囲していた連合軍に全く気づかれずに、撤収に成功したことで、奇跡の作戦と言われているようだ。

全く話が変わるが、中3の時、高校生の男子生徒と在校生の女生徒の桃色事件が起こった。学校は大騒ぎ。小生は友人が好きだと言っていた女生徒が近くにいて、おーい！と彼を冷やかしていた。調査でそのことを彼女が進言したらしく、担任に宿直室に呼び出されて説教された。君を信じていたのになんてことをと、私は、何のことやらさっぱりわからず、だんまり。後でなんとなく判った。高校入試直前、私が間違っていたと担任。S高校を受けるんだね、必ず通すから心配するなと・・・。これは駄目だと懸命に勉強に精出した。進学できた高校では、4クラスのうち1クラスを入試成績上位で「経営コース」とし、クラスの成績上位者をクラス役員に担任が指名した。役員に任命されたことから、中学担任の世話にはなっていないことがわかった。高2の時には、就職担当教師（後で知ったが）が、事務作業を指示して作業に従事した。教師が君の名前は？ 就職の世話はちゃんとするから心配しないようにと。これは駄目だと、就職試験問題集を購入して、完璧と思えるまで頑張った。第一希望であった弊社に推薦をもらい入社がなかった。昭和33年は大不況の中だったので安堵した。また、入社2年目の夏、弊社が全国労働衛生週間に関西で初めて労働大臣賞を受賞することになり、その資料を作成するように主任から指示された。2週間資料作りに構内を自転車で走り回り、やっとの思いで仕上げた。一字の訂正もなく提出した。大阪体育館での表彰式で、本部長が受賞され謝辞を述べられた。大々的に報道もされた。後日、主任が資料は彼がひとりで仕上げたものと、本部長を含めた関係者に報告をしてくれた。嬉しかったのと、何事にも最善を尽くす大切さが身に沁みだ。

自分の人生の一部をこの機会に振り返った。良き思い出としたい。





## ズームレンズ・バリフォーカルレンズ

竹田 幸男

ズームレンズという言葉は、皆さんよくご存じのはずです。では「バリフォーカルレンズ」は、と聞いても、ほとんどの方は聞いたことも無い言葉だと思います。

この欄で、かなり以前に取り上げたことがあります。再びここに取り上げたのは、ある例会で、一会員からズームレンズの使い方についての発言があったので、ズームレンズについて皆さんに理解して頂いた方が良くと思って再度記事にしました。

それはズームレンズを使った撮影の仕方において「ズームを一杯に望遠側にしてピントを合わせ、それからワイド側に持って行って撮影する」という説明です。実はこれ、ズームレンズが出始めた頃、写真を上手に撮影するコツとして先輩から教え込まれたノウハウでした。望遠側では対象物が細かく見えるのでピントが合っているかどうか、よくわかるので、ピントが合わせやすいと思われます。そのままワイドに持っていても、合わせたピントは、そのまま、と考えられたのでしょう。しかし、時は過ぎ行き、今やこのノウハウは通用しない時代となりました。

写真、ビデオのレンズは何枚ものレンズの集合体です。虫眼鏡というのは1枚のレンズですが、白い紙の前に虫眼鏡を置き、明るい景色、例えば電灯の笠などを白い紙に映し出すと物体の輪郭に虹色が見えます。光の色によってレンズを通る間に曲がる角度が違うので、波長の長い赤に比べて波長の短い紫は大きく曲がるので、紙の上に虹色が付いてしまうのです。これを防ぐために、簡単に言うと屈折率の違うガラスを使った2枚のレンズを貼り合わせて使います。またレンズには、四角い物が四角に写らず、四辺が膨らんだり、逆にへこんだりする性質があり、このようなひずみをなくすために何枚ものレンズを集めて一体にして使います。ズームレンズの無い時代は、3枚のレンズを組み合わせたトリプレットタイプや、4枚のレンズを合わせたテッサタイプというレンズが、一般的な写真レンズでした。が、いまは性能を高めるために、だんだんレンズの枚数が増えています。

ズームレンズの出現でレンズは複雑になってきました。レンズは1枚から数枚を



一体とした「群」を、前後に動かすことで焦点距離を変え、風景を拡大・縮小するようになりました。これがズームです。また別の「群」を前後に動かすことで焦点位置を変え、いわゆる「ピント」を合わせています。

所が、ピントを合わせた後に、ズームで拡大・縮小するとピントの位置がずれてしまうのです。これを避けるためにレンズの中に「カム」という機械的にレンズ群を前後に動かす装置をつけ、ズーム比を変えるレンズの「群」を移動させると、ピントを変えるレンズの「群」を、カムで移動させるようにして、ズーム比を変えることによるピントの変化を避けるような工夫がされています。このような機構はとても複雑になって費用もかかり、重量も重くなります。「ズームレンズ」という名称は、ズーム比を変えてもピントの位置は移動しないものを言うのですが、現在ズームレンズとして売られている物は、本当は「バリフォーカルレンズ」とよばなければならないものです。これは「ズーム」することにより「焦点位置が変わる」レンズということになります。プロ用の映画用レンズなどは、本当の「ズームレンズ」ですが、民生用のカメラやビデオカメラのレンズは、事実上「バリフォーカルレンズ」と考えて良いでしょう。

では、なぜそのようなレンズが成り立っているのか、と言うと、それは「オートフォーカス」に助けられているのです。カメラを向けてシャッターボタンを押すとオートフォーカスがピントを合わせてくれます。そこでズームレバーでズームすれば、ズームすることによりピント位置が刻々と変わりますが、その変わって行くピントをオートフォーカスが刻々と合わせ続けてくれます。だからこのようなレンズを使ってもズームの始めから終わり迄、ずっとピントが外れることがないのです。

このような「ズーム」ならぬ「バリフォーカルレンズ」の付いたビデオカメラで、マニュアル状態にして「望遠」でピントを合わせ、引いてきて「ワイド」で撮したりすると、ピントが移動してボケてしまい、折角の努力が無駄になります。ワイド側では焦点深度が深いので明るい場面では余り目立たないが、絞り開放に向かう暗い場面ではボケが目立ってくると思います。今の世の中、くれぐれも昔の先輩の教えてくれたノウハウは忘れることにしましょう。 ■